

2014年7月15日

# 北海道住宅新聞

2014年7月15日(火) 第1076号 毎月5・15・25日発行 平成5年1月11日第三種郵便物承認

新住協北海道

## 新法人の設立を祝う

広域研修会には100名参加

NPO法人新住協は8日、札幌市内で北海道ブロック広域研修会を開催し、会員約100名が参加した。

研修会では、鎌田紀彦室蘭工業大学特任教授がこれまで検討した外壁200～300mm断熱の手法について、横下地、縦下地、はしごパネル等各手法をまとめて紹介。次いで、会員の実際の取り組みとして『「はしごパネル」の施工性と評価』（旭川・芦野組）、『「210材を使った200mm付加断熱」』（十勝清水・紺野建設）、『「二重下地による250mm断熱」』（札幌・SUDOホーム）、『「Q1.0-X住宅の設計と断熱構成」』（岩見沢・武部建設）、『「木下地を使わないロックウール外断熱」』（札幌・音熱環境開発）の5つの事例発表が行われた。

この中で鎌田教授は、たる木と合板でつくるハンゴ状パネルを外側付加断熱下地とする「はしごパネル工法」について、「コストダウンのために、パネルの設置は910mmピッチとし、その間にロール品のグラスウールを充てんする方法が良い。455mmピッチのほうが安心感はあるが、構造的にも910ピッチで問題ない。また縦下地と横下地は、外壁が縦張りか横張りかによって使い分けられれば良いが、施工性は横下地のほうが良さそうだ」と解説した。



鎌田紀彦氏



多くの参加者が集まった広域研修会

この後、一般社団法人化のスタートを記念して懇親会が行われた。懇親会の発起人代表として(株)芦野組の芦野和範社長が「鎌田先生との最初の出会い、組織設立から25年が経過し、先生の指導を通じて住宅の性能は著しく進歩した。旭川支部でも外壁200mm断熱の住宅プロジェクト『新住協村』の成功など、さまざまな成果があった。新しい組織になっても先生に会員工務店を引っ張っていただきたい。」とあいさつした。この後、和やかな雰囲気の中、会員の交流が行われた。